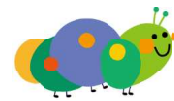


★お知らせ
今年度から上記の第
〇号は発刊からの通
し番号と致します。

親の会ーやすらぎ加賀教室とともにー



「こんばんは～！遅くなってごめん。あ！それよりこれ食べる？おいしいげんよ」

明るい声で、センターの扉が開きお気に入りのお茶菓子を持って参加メンバーが入ってくる。先に来ていたメンバーも笑顔で迎えている。

親の会では、コーヒーと持ち寄ったお茶菓子をつまみながら、それぞれの近況や感じていることなどを思い思いに話している。時には職場の愚痴や、家族のことなど話題はいろいろある。楽しく、時に真面目に語り合う、この「親の会」についてまずは成り立ちを説明させていただく。

児童家庭支援センターファミリーステーションいなみえんとやすらぎ加賀教室が協力し開催している「親の会」は、不登校の子どもを持つ親の会である。特に、もともと不登校であった児童生徒たちで、中学卒業や高校中退などを機にどこにも所属がなくなった子どもたちの保護者を対象として立ち上げられたものである。

何らかの形で学校に所属している間、子どもたちもその保護者も、教師やその他の教育相談機関で相談しやすい。ところが、中学を卒業したあと進学せずに、もしくは高校に入学したものの中退したあと、目標を持てずにいるとき、本人はもちろん保護者もこの先どうしたらよいかわからなくなることが多い。そこで、当センターややすらぎ加賀教室などが相談機関として本人や保護者の相談にあたるのだが、やはり、保護者の胸の内では「自分だけが、自分の子だけがこんな風になってしまっていて…」といった思いが募り、また、周囲からも責められているように感じ、苦しまれることが少なくない。そこで、保護者同士で気持ちを分かり合うことが出来ればと、保護者向けの自助グループや他の親の会を紹介することもあった。ところが、「学校に所属している不登校の子どもを持った親」と「学校に所属しなくなった不登校の子どもを持った親」の間では、思いのズレがあった。不

登校の子どもを持った親同士、分かり合える共通点も少なくない反面、いや、だからこそかもしれないが、学校に所属している子どもたちには学校からの支援・援助があり、それが途切れてしまった学校に所属しない子どもたちの親はその差に、余計苦しさを感じてしまった。そのことに「悪い人たちじゃないのは分かるけど、行くと余計辛くなって…」との言葉に初めて気づかされた私たちは、このような思いを抱えている保護者は決して少なくないと思い、やすらぎ加賀教室のT先生に連絡をし、新たな保護者向けの会を立ち上げることが出来ないか相談した。すると、T先生からも、実は…と同じような思いを抱えている保護者がやすらぎ加賀教室にも相談に来ていたとのことで、さっそく親の会を企画することとなった。

そこで初めにも述べたように、この親の会の参加資格はどの学校にも所属しない不登校（学校に所属していなので不登校と言うのもおかしいが）の保護者とした。周囲の協力も得られ、順調に親の会をスタートできたが、その後の道のりは決して平坦とは言えなかった。集まった保護者の方々の話は、当初考えていた以上に重苦しい雰囲気を感じさせられるものであった。また、参加者が一人だけという時もあった。それでも、参加者とスタッフが互いに支え合い、「何があってもまず1年続けよう」と励まし合った。

すると、いつのころからか、会の雰囲気が変わってきた。重苦しい話もある。抜け出せない状況に涙することもある。しかし、そんな中、笑顔が見られるようになってきた。



次ページへ続く→



冗談を言い合ったり、子どもたちとは全然関係のない、ケーキ屋さんの話や映画の話をする場面が増えてきた。これはとても大きな変化だ。気軽なお茶飲み話ができる関係を作ることが出来るのがどれだけ重要なことだろうか。お互いに、深く傷つき涙を流し合った仲間だからこそ、ようやくそれまで出来なかった「気軽な話」を出来るようになったのだ。周囲の目を気にするあまり、これまでの友人関係から遠ざかったり、自分自身がひきこもりに近い状態になってしまう方がいる中で、安心して本音を語り、また他愛もない事も同時に話すそんな場になっていった。そうすると不思議なもので親が元気になっ

てくると子どもも元気になってくるのだろうか。「そろそろ…」と動き始める子が出てくる。やすらぎ加賀教室のT先生の協力もあり、個別で進路の相談にもつながっていった。他の参加メンバーも心から祝福をしている。これが親の会の役割りなんだと実感させられる場面だった。

今は、冒頭で紹介したように、我々スタッフも含めてみなが楽しみながら会に参加している。この楽しむパワーが、子どもたちに伝わっていくことを信じて！

臨床心理士 浅田 伸史



ファミリーステーションいなみえん 活動紹介

平成28年度になり、ファミリーステーションいなみえんは新たに心理士を1人迎えました。相談員2名、里親支援専門相談員1名、心理士1名、臨床心理士1名の計5名で活動を行っています。今回は、ファミリーステーションいなみえんの活動についていくつか御紹介いたします。

薬物乱用防止教室

小学校5、6年生を対象とした薬物乱用防止教室での講師を務めています。薬物とはどのようなものなのか、その危険性について講演を行っています。“もし、友だちや周りの人から薬物に誘われたらどうするか”などといった事例から、断り方や対応などを考えます。他にもタバコや酒、危険ドラッグについてもその講演内で説明し、薬物依存者の治療にも関わった講師自身の経験から、子どもたちが自分の身を守れるように働きかけています。



山代ファミリーサポートセンター

地域出張相談

山代地域にある“山代ファミリーサポートセンター”を会場に当センターの相談員・心理士が地域の子どもや子育てに関する保護者、子どもの相談、心理面談に応じる、出張相談を行っています。毎月、第2、第4水曜日の15時から、要予約となっております。利用の仕方として…

小学校から継続的に山代出張相談を利用しているAさん。中学生になり、部活動で一生懸命に頑張っていました。そのため下校時間も遅くなったので、Aさんのペースに合わせた支援ということで、部活動終了後に心理面談を行い始めました。このことに関しては、中学校のご協力も頂き、下校時間等の変更があった場合は連絡を頂くこともありました。その他、中学校での様子などの情報交換もさせて頂き、連携をとりました。

日常の身近な見守りと支援、継続的な心理面談により、Aさんは部活動に打ち込み、問題に対応する力を身につけていきました。それが成果となって現れると、家族間の信頼関係も生まれ、問題が少しずつ良い方向へ向かいました。今では、心理面談を行わなくてもよい状態となりました。

このように、山代ファミリーサポートセンターでの相談、心理面談だけではなく、地域や学校等関係機関と連携を取り、見守りと支援を行っています。

里親支援専門相談員 上出 洋子

第3回

Nobody's Perfect

再会プログラム① 2月5日

昨年秋（H27年9～10月）に行ったNPのメンバーで再会プログラムを開催しました。10名中8名の方が参加され、託児は3名でした。参加者の方々は頻りに連絡を取り、会っているようでした。しかし、普段の生活とは違うNPの空間で、リラックスしながら語り合えることを特別な時間だと感じていただけているようでした。

テーマは「仕事を始めてからの育児・家事」、「断乳」、「子どもが発する卑語」の3つでした。グループ内でファシリテーターのような役割を担う方や、以前より自信を持って発言している方など、本プログラムの時と比べて参加者に変化が見られました。



新年度になり、仕事で参加できないという方も増え、再会プログラム2回目は5名での開催となりました。週末に、この場にはいないメンバーも含めてピクニックを計画しているとのこと、変わらず定期的に集まっている様子でした。

「自分にとって大切な日」という題でウォーミングアップを行いました。お子さんの誕生日や結婚記念日での思い出などを語り合いました。

今回は（5名ということでグループには分かれず）、「子どもの通院」と「反抗期」という2つのテーマで語り合いました。

「仕事を始めてからの育児・家事」

一日のスケジュールを書き出しグループで発表しました。“家事にとらわれすぎず、適度に力を抜きながら子育てを楽しむことが大切!!” だそうです。

「断乳」

おっぱいが安定剤となっていた為ぐずるとのことでした。そのため、寝かしつけの際は旦那さんに協力してもらい、子どもが諦めるのを待つというご家庭もありました。

「子どもが発する卑語（下品な言葉）」

「おしり」や「おしっこ」といった言葉をふざけて言うので対応に困っているとのことでした。“飽きるまで放っておくのが一番” や “おしりちゃんと呼んでみる” など様々な対応がありました。

再会プログラム② 4月15日

「子どもの通院」

保育園に通うようになってから、どの程度の体調の悪さで病院に行けばいいのかが分からず、皆がどうしているか気になったとのことでした。病院についての情報を共有することもできていました。

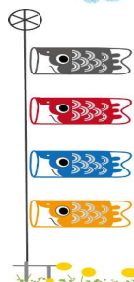
「反抗期」

多子家庭の方が、上の子どもと下の子どもの反抗期とイヤイヤ期が重なって辛いとのことでした。思わず手をあげてしまうことや、学校の役員がいくつか重なったことなどの辛い思いを吐き出してもらいました。「イライラするけど可愛いところもある。話せてスッキリしたし皆から元気をもらえた」と少し気持ちが軽くなったようでした。

全6回にわたる本プログラム、そして今回を含めた2回の再会プログラムを終えて、当センター第3回目のNPプログラムは終了しました。今回の参加者は、子どもの年齢だけでなくお母さん方の年齢も幅広かったにも関わらず、子どものいるお母さんという視点でプライベートでも参加者同士連絡を取り合っていたようです。プログラム中も参加者同士でアドバイスをしあったり、先輩ママの悩みを聞くことで子どもの成長に合わせてどんな悩みがあるのかを学んだり…。そんなお母さん方の姿を見て、NPプログラムが終わったこれからも、継続して悩みを共有していくことができるのでは、と感じました。

相談員 端 麻友子

もう一度 気を引き締める



4月ももう終わりを迎える頃にこの文書を書いているが、今年ももう3分の1が過ぎようとしている。新年度が4月なので、始まったばかりのような気がするが、じつは2016年はあと3分の2しかないのだ。今年こそはと新年で誓っておきながら、全く何も変わっていない。このままいくと、来年の正月も同じ事を言っていそうである。2度寝の欲を断ち切る気分にちょっと似ている。

副理事長 表 敬喜

今後の予定

- 5月 8日(日) 里親会総会
 5月 9日(月) 施設心理士会
 5月17日(火) 子ども支援連絡会(月定例)
 5月18日(水) 親の会(月定例)
 5月26日(木) 全国児童家庭支援センター総会
 〈東京〉
 5月30日(月) 山代地区子どもを育てる会
 (月定例)
 6月 4日(土)～5日(日)
 東海・北陸ブロック里親研究大会 〈岐阜〉



曜日	一般相談担当	心理担当 (要予約)	
	杉本・上出・端	浅田	白田
月	9時～17時		9時～17時
火	9時～17時		9時～17時
水	9時～17時		9時～17時
木	9時～17時		9時～17時
金	9時～17時		9時～17時
土	9時～17時	10時～17時	9時～17時
日			

平成27年度相談件数 統計

	1/1～3/31	4/1～3/31
電話相談	43件	106件
来所相談	0件	4件
訪問相談	9件	40件
通所相談	0件	7件
派遣相談	0件	49件
心理療法等	84件	372件
メール相談	0件	0件
手紙相談	0件	0件
その他	191件	763件
合計	327件	1341件

【山代出張相談】

< 場所 >

山代ファミリーサポートセンター

< 日時 >

毎月第2・第4(水) 13:00～15:00
 連絡は当センターまで。

【相談ダイヤル】

月曜～土曜/9:00～17:00
 0761-75-8889

子どもと家庭の悩み 話してみませんか？

児童家庭支援センター **ファミリーステーションいなみえん**

〒922-0412 石川県加賀市片山津温泉井6番地

TEL 0761-75-8889

FAX 0761-74-1461

E-mail info@inamien.jp

HP http://www.inamien.jp